

稲城市ボッチャ大会申し合わせ事項

1 競技規則

本大会は、「日本ボッチャ協会競技規則 2025-2028 v.1」及び大会申し合わせ事項によって実施します。(日本ボッチャ協会競技規則 2025-2028 v.1 は、日本ボッチャ協会ホームページをご確認ください。)

2 競技方法

- ・団体戦で実施します。
- ・予選グループリーグを実施し、その後、各グループ上位 1 チームによる決勝トーナメントを実施します。また、トーナメントの準決勝で敗退したチームで 3 位決定戦を実施します。
- ・予選グループリーグの勝敗決定順は以下のとおりとなります。
勝数 ⇒ 直接対決時の結果 ⇒ 得失点(該当チーム)⇒ 総得点
なお、上記の決定順でも勝敗が決まらない場合はタイブレイクを実施します。
- ・クラスの区分は行いません。
- ・1 チーム 3～6 人とし、1 エンドでプレーできる人数は 3 名です。エンド途中での選手交代は認めず、選手交代は第1エンドと第 2 エンドの間のみ可とします。

3 使用コート・ゲームエンド数・時間

- ・コートは東京都市町村ボッチャ大会仕様とします。(概ねバドミントンコート半面サイズ)
- ・使用コート:メインアリーナ 10 面
- ・1ゲーム:2 エンド
- ・投球については、各チーム 1 エンド 5 分を目安とします。試合進行にご協力をお願いします。なお、5 分を大きく超える時間をかけるなど、試合進行に影響がでる場合は主審から注意をする場合がございます。
- ・練習投球:各チーム最初のゲーム第 1 エンド開始前に、1 人 2 球投球することができます。第 2 エンドに入るとき及び 2 ゲーム目以降は、練習投球はありません。
- ・ゲーム開始前:各チームから選出された 1 人がじゃんけんを行い、勝ったほうが左右どちらかのボックスを選択する。
※左のボックス(赤ボール)を選択⇒第 1 エンドジャックボール
※右のボックス(青ボール)を選択⇒第2エンドは同じボックスでジャックボール
※エンドが変わっても各チームはボックスを移動しない。

4 タイブレイク(同点時の延長戦)

- ・タイブレイクは、第 2 エンド終了時に、第 1 エンド及び第 2 エンドの合計点が同点の場合に実施します。各チームの選出された 1 人が、クロス中央のジャックボールを目標に 1 球ずつ投球し、より近付けられた方が勝利とします。

- ・投球順は選出された者同士でジャンケンを行って、勝った方が先攻・後攻を選びます。なお、投球ボックスは試合のままのボックスから移動しません。
- ・投球を行った結果、両者が完全に等距離になった場合、2回目のタイブレイクを行います。その際は先攻・後攻は入れ替えるものとします。

5 ボールの投球について

- ・ボール投球時、スローイングボックスラインに触れている場合、審判から口頭注意をします。スローイングボックスラインを踏んだまま投球されたボールは無効とし、審判によって取り除いた上で、再投球します。(ペナルティスローは行いません。)
- ・ボールは、投球する選手のみが触れることができます。自身のチームの投球順であっても、投球する選手以外の選手は、ボールに触れることは認められません。投球者以外がボールに触れていた場合、審判から口頭注意をします。同時に複数のボールが投球された場合、そのボールは審判によって選手の元に戻し、投球のやり直しとします。
- ・投球しないプレーヤーはボックスの外に出てもかまいません。

6 コートから出たボール

- ・全てのボールは、ラインに触れたりラインを超えたりした場合は、コート外に出たものとみなし、審判によって所定の位置に取り除かれます。

【具体的な事例への対応例】

- ①ジャックボールがコートの外に出た場合ジャックボールはクロスの上に置く。ジャックボールに最も近いボールのチームと反対のチームの投球から再開とする。
- ②エンドのはじめに投げたジャックボールが無効エリアやコートの外に出た場合
相手チームが先攻となりジャックボールを投球し試合を再開する。その際、投球するボックスは変更しない。
なお、第1エンドにおいてこの状態となった場合でも、第2エンドの先攻・後攻に変更はなく、通常どおり第2エンドは青ボール先攻とする。
- ③コートから全てのボールがなくなった場合
ジャックボールをクロスの上に置き、その状況を作り出したチームの投球から再開とする。その際、投球者を変更しても構わない。
- ④ジャックボールのみコートに残った場合
その状況を作り出したチームの投球で再開する。その際、投球者を変更しても構わない。
- ⑤カラーボールがジャックボールと完全に等距離になった場合
点数が同点の場合は、その状況を作り出したチームの投球から再開とする。
点数が同点ではない場合は、点数の少ないチームの投球から再開とする。

7 補助具等の使用について

- ・補助具(ランプ)の使用、補助員による補助を必要とする場合は、受付時に申し出ること。
- ・投球時にランプを使用する場合、ランプの先がスローイングボックスラインを超えてはいけません。
- ・補助員も、スローイングボックス内から出てはいけません。
- ・補助員は、コート内を見てはいけません。
- ・マイボールは使用できません。

8 コミュニケーションについて

- ・チームメンバー内でのコミュニケーション(会話)は認めますが、相手チームに迷惑となるような言動が見られた場合は、審判から口頭注意をします。審判が注意しても改善されなければ、相手チームが投球の時の相談を禁止します。
- ・審判に点数を聞いたり、ボールの配置を確かめるためにコート内に入ることができるのはパドルが出ているチームのうち一名のみとします。パドルが出ていないチームは自分たちの番になるまでその権利はありません。

9 東京都市町村ボッチャ大会の出場権について

- ・本大会の上位 2 チームは、令和 8 年 1 月 24 日(土)に実施される東京都市町村ボッチャ会への出場権を獲得します。なお、出場権獲得チームが上記大会への出場を辞退した場合は次点のチームに出場権が移ります。大会詳細については、出場チームの代表者様宛に後日連絡いたします。